

在宅介護実態調査から見える課題について

1 調査概要

(1) 調査目的

第 10 期介護保険事業計画の策定に向け、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に必要な支援や課題を把握し、今後の施策検討の基礎資料とするため実施

(2) 調査対象

要支援・要介護認定の更新申請又は区分変更申請に伴い認定調査を受けた在宅生活者（施設入所者及び入院者を除く）

(3) 調査方法

認定調査員による聞き取り調査

(4) 調査期間・回収数

令和 7 年 12 月～令和 8 年 3 月 回収数 633 件

2 調査結果から見える主な課題

(1) 認知症への対応 （集計結果 P10、P13）

○主な調査結果

- ・介護者が不安に感じる介護の第 1 位は「認知症状への対応」 38.0%
- ・要介護 1・2 43.2%
- ・要介護 3 以上 41.0%

⇒認知症による見守りや対応に家族が大きな負担を感じていると考えられる。

(2) 介護と仕事の両立支援 （集計結果 P8～P10）

○主な調査結果

- ・問題はあるが何とか仕事を続けられる …… 53.9%
- ・労働時間を調整しながら働いている …… 36.3%
- ・介護休暇等を取得しながら働いている …… 21.4%
- ・介護休業・介護休暇制度の充実を求める割合 31.9%

⇒仕事と介護の両立に負担を抱える介護者が多く、働きながら介護を担う人への支援が課題と考えられる。

(3) 単身高齢者への生活支援 （集計結果 P12、P20）

○主な調査結果

- ・見守り・声かけ 40.6%
- ・ごみ出し …… 31.3%
- ・買い物支援 …… 26.0%
- ・施設入所検討・申請済み 32.3%

⇒介護サービスだけでなく、日常生活を支える地域の支援が課題と考えられる。

(4) 移動支援ニーズの高まり （集計結果 P5、P20）

○主な調査結果

- ・移送サービス 23.2%
- ・夫婦のみ世帯 32.8%

⇒通院や買物などの移動手段の確保が在宅生活継続の課題と考えられる。

3 まとめ

本調査からは、「認知症への対応」「介護と仕事の両立支援」「単身高齢者への生活支援」「移動支援ニーズの高まり」といった課題が確認された。今後、第 10 期計画の策定にあたり、これらの課題への対応について検討を進めていく必要がある。